

## 研究プロジェクト

## 社会的ネットワークの機能と性質：「つなぐ」役割の検証

内田由紀子（こころの未来研究センター准教授）

本研究は、人と人とのつながり（社会関係資本）が形成される過程と、つながりの中でもたらされる社会的サポートの効果の検討を目的としている。本研究プロジェクトでは、特に農村コミュニティにおいて社会的ネットワークの構築において「プロ」の役割をもつ普及指導員に注目して検証している。本年度は特に、どのような性質あるいは行動様式をもつ普及指導員が社会関係資本の向上に寄与しているかを検証した。

### ■調査の実施

農村コミュニティにおいてネットワーク形成を支援することの重要性やそのための普及指導員のスキルについて検討するべく、2010年度に、全国農業改良普及職員協議会の協力を得て、全国の普及指導員を対象とした調査を実施した。さらに、2011年度に愛知県下の普及指導員への調査も行った。これらの調査の実施により、主に次の3点についての検証が可能になった。

第1に、2009年度の調査に参加した近畿の普及指導員にも改めて全国調査に参加してもらったこと、さらに2011年には前年度に全国調査に参加した愛知県の普及指導員に調査に参加してもらったことにより、近畿では2009～2010年度の、愛知では2010～2011年度の、パネルデータとしての時系列変化を検討することが可能になった。これにより、普及活動が農村コミュニティ内の社会的ネットワークの発展に実際に寄与しているかどうかを検証することができた。

第2に、全国の普及指導員を対象にした調査の実施により、2009年度の調査では得られなかったより詳細な検討を行うことができた。それは主にどのような特徴をもつ普及指導員が農村コミュニティにおける社会関係資本の向

上に寄与しているかという分析である。

第3に、これに関連して、地域ごとに異なる効果の有無の検証である。

2011年度にはこの全国調査のデータの解析を完了させることができた。主な結果は下記のとおりである。

1) 農業者同士の連携を促進するための普及活動、関係機関との連携を促すための普及活動、将来に向けてのビジョン提示のための普及活動、そして、地域の具体的な問題を指摘するような普及活動が特に効果を持ちやすいことが示された。この中でも、農業者同士の連携、ならびに関係機関との連携調整に関する普及活動は、農村社会の社会関係資本に関わる普及活動だと考えられる。なお、農業者同士の連携を促進するための普及活動は、1人の普及指導員の担当する農業経営体の数が平均的に多い都道府県ほど、効果的であることが確認された。

2) どういった特徴を持つ普及指導員が、コミュニティ内部の信頼関係（社会関係資本の一種）を高めやすいかを検討した。その結果、関係機関との連携活動に優れた普及指導員やコミュニケーション能力に秀でた普及指導員が、住民同士の信頼関係を高めやすいことが示された。また、普及指導員個人の特性だけでなく、普及指導員を取り囲む社会関係も重要な影響力を持ち、普及指導員とコミュニティの結びつき、そして普及指導員の職場の人間関係の良さも、コミュニティ内部の信頼関係を高める効果を持つことが示された。このことは、普及指導員を囲む「つながり」が、別の場所の「つながり」へと連鎖することを示唆している。

3) 各普及指導員が対象としているコミュニティの生活レベルに、そのコミュニティの住民同士の信頼関係がどのような効果を持つかをパネル・データで検討した。その結果、住民同士の信

頼関係が強いほど、そのコミュニティの生活レベルが高くなることが示された。この結果は、農村コミュニティにおける社会関係資本の重要性を示している。

4) どのような特徴を持つ人物が同僚から尊敬されやすいかについて、普及指導員と他の公務員（教員、技術職、事務職）を比較した。その結果、他の公務員と比べて普及指導員の間では、他者（たとえば農業者）の視点に立とうとする傾向（他者志向）、チームワーク、視野の広さに優れた人物が尊敬されやすいことが示された。また、普及指導員と教員の間では、技術職や事務職に比べて、情熱的な人物が同僚から尊敬されやすいことが示された。こうした特徴が普及活動において重要な役割を果たしていることが示唆される。

5) 普及指導員の日々の業務の中での感情経験に影響する要因を検討した。その結果、普及活動に関わる知識・技術、コミュニケーション能力の高い普及指導員ほどポジティブ感情を経験しやすく、ネガティブ感情を経験しにくいことが見出された。特にポジティブ感情に関しては、知識や技術よりもコミュニケーション能力がより強い効果を持っていた。また、コミュニティ内部の信頼関係も普及指導員の感情経験に影響し、強い信頼関係のあるコミュニティで活動する普及指導員ほど、ポジティブ感情を経験しやすく、ネガティブ感情を経験しにくかった。

### ■対外活動ならびに成果の発表

2011年11月に開催された全国普及活動研究大会での基調報告とそのまとめ（「技術と普及」2012年2月号掲載）、書籍『農をつなぐ仕事』（内田由紀子・竹村幸祐、創森社）の出版、日本心理学会でのワークショップなどで成果を報告している。